

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。どなたでもご参加いただけます。それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

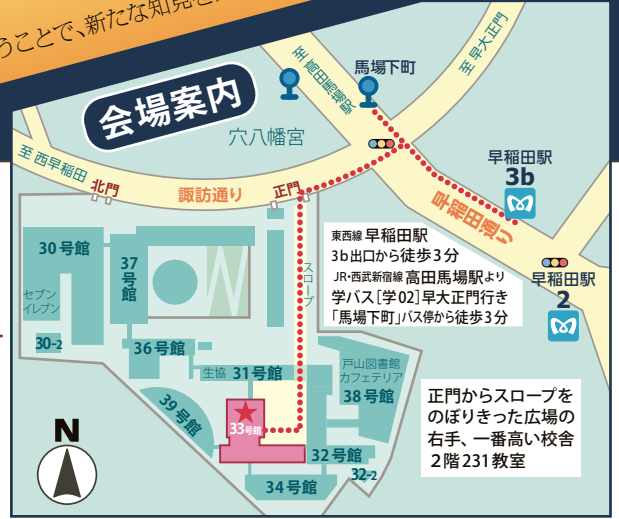
第77回

2023年
11月11日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 戸山キャンパス 33号館 231号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。
☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)
※ 予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。
※ 報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。

参加無料



大竹博吉・せい夫妻とナウカ社 —すべてはここから始まった

『大竹博吉、大竹せい 著作・翻訳目録』を刊行して

報告者：宮本 立江

ロシア絵本をわが国にもたらした大竹夫妻 その情熱と使命感

報告者：沼辺 信一



大竹博吉・せい夫妻 (1925年、大連で)

大竹博吉 (1890~1958) と大竹せい (1891~1971) は1932年に神田神保町でナウカ社の営業を開始、日本初のソ連からの輸入による書籍の販売と出版活動に携わったほか、ともにジャーナリスト、文筆家・翻訳家として、多方面にわたる活動を通じ、日露文化交流に大きな足跡を残しています。

今回の桑野塾では、多年の調査を経てこのほど刊行された資料集『大竹博吉、大竹せい 著作・翻訳目録』の編者の一人である宮本氏が、大竹夫妻の仕事の多彩な広がりについて概説します。

後半では巡回展「幻のロシア絵本 1920-30年代」(2004~05)を構成・監修した沼辺氏が、戦前の日本にロシア絵本が浸透するうえで大竹夫妻が果たした決定的な役割について、原弘、柳瀬正夢、松山文雄らが秘蔵した絵本の調査を踏まえ、豊富な実例を挙げながら詳しく紹介します。



松山文雄が1930年代にナウカ社で買い求めたロシア絵本



大竹博吉、大竹せい 著作・翻訳目録
附・関連文献一覧

2023年7月27日刊
編集：宮本立江・村野克明
発行：大竹博吉、大竹せい著作目録刊行委員会
連絡先：tmiyamoto@cat.email.ne.jp

●宮本 立江(みやもとたちえ)

桑野塾世話人。ナウカ株式会社に勤務、同社の季刊誌「窓」ほかの編集に携わる。「大竹博吉、大竹せい 著作・翻訳目録 附・関連文献一覧」を村野克明氏と編集、今年7月に発行した。

●沼辺 信一(ぬまべしんいち)

編集者・研究者。1952年生。ロシア絵本の世界的な伝播、日本人とパレエ・リュス、プロコフィエフの日本滞在など、越境する20世紀芸術史を探索。桑野塾登場はこれが七回目。ブログ「私たちは20世紀に生まれた」<http://numabe.exblog.jp/>

●問合せ・申込み：大島幹雄(おおしまみきお) E-mail: izj00257@nifty.com